

第16回 指導医のための教育ワークショップ

と き 令和2年1月18日(土)・19日(日)

ところ 山口県医師会

[印象記: 宇部協立病院整形外科 上野 尚]

1月18～19日に「第16回指導医のための教育ワークショップ」が開催されました。参加者の一人として感じたこと、考えたことなどを印象記として書かせていただきます。

私は63歳だったが、整形外科の研修指導をしているので、とうとう逃げ切れなく、しぶしぶ参加した。参加者は17名で、タスクフォースによる見事な司会進行と他己紹介でのアイスブレイクではじまり、研修の内容はとても充実したものだった。17名の参加者は3グループに分けられ、6名グループが2つと5名グループで、グループワークには適した人数となった。

まず、最初のワークショップは「社会が求める医師の基本的臨床能力とは」のお題で、全員が文殊カードにアイデアを書き込み、KJ法で島を作り、標題を付ける作業だった。その表題の関連性を考え、つなぎ合わせ、大きな絵を作っていく。さらに、その標題の中から一つを研修目標に選ぶ。Aグループは「皆をまきこむ医療」、Bグループは「患者と医師の関係」、Cグループは「責任感」で、どれも意欲的なテーマ設定であった。

次に、研修プログラム立案の模擬作業が行われた。プログラムで研修医に期待される成果として、一般目標「General Instructional Objective (GIO)」



を作成し、次いで、観察可能な具体的行動が行動目標「Specific Behavioral Objectives (SBOs)」を設定する。各SBOsは知識、態度、技能に分類される。これらの用語は参加しないと分からないと思う。これらの作業を各グループが行い、模造紙に書いて発表するのだから、各人が能動的に動かざるを得ない。さらに、この行動目標に対して、それを実現させるために研修方略の作成・発表、翌日は研修評価の作成・発表と休みなく続けられた。作成に1時間15分、全体発表は20分くらいであった。

このように書いてみると、無味乾燥な作業の



繰り返しと思われるが、ひとつひとつの作業の中でみんなの意見・アイデアで少しずつ作品が進化していき、作品が完成されたときは実に大きな達成感が得られる作業である。その間に「臨床研修制度最近の動向」や「メディカルサポート・コーチング」などの講義が



散りばめられて、本当によくできた教育ワークショップとなっていた。とにかく楽しく作業できたので、私が所属したBグループのメンバーに感謝申し上げたい。

最後のワークショップは「臨床研修の充実に向けて」だった。ここで再びKJ法の島を作り、我々のグループは「指導医の負担への対策」をテーマとした。グループでその解決策を討論し、①簡易な指導医マニュアルの作成と周知、②指導医へのインセンティブ（休暇、評価、昇給）、③研修担当事務をつける、④指導医研修を受け、指導医を増やす、⑤指導医偏在の是正、⑥他の医療従事者を巻き込む、を提案とした。（この研修会を受け、指導医資格を得ると、指導手当が給与に上乗せされる大学病院もあるそうだ。）

タスクフォースの先生方について書かなければなりません。タスクフォースは司会進行だけではなく、講義の講師も務め、すべてのワークショップに入って細かなアドバイスでグループを支えていました。1日目の夜の情報交換会も盛り上げてくれました。タスクフォースの多くが県外からの先生でした。一年に20回近く参加されるタスクフォースもおられ、その熱意には頭が下がります。山口県では研修医養成と同様に、タスクフォース養成も課題とのことでした。

最後に、研修会を主催された山口県医師会役員の先生方と、陰で支えていただいた事務局職員の皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

